

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【原山小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	今年度の学力調査の結果からICTを積極的に活用している高学年ほど、知識・技能の定着が見られている傾向が明らかになった。来年度については、これまでの授業の改善に加え、低学年からの一層のICT活用、ICT環境の整備を進めたい。
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査、さいたま市学力・学習状況調査、共に、複数の情報を整理したり、比較したり、意図の知識と関連付けたりして考える力に課題が見られた。これらの力は、教科横断的に学校生活全体で培っていく必要があるため、学校課題研修を中心に学校全体で、課題に対して取り組んでいきたい。
主体的に学習に取り組む態度	教科書から「振り返り」については課題が見られたため、今年度は学校課題研修において「振り返り部」を設定し、積極的な改善に取り組んだ。来年度、半年ほどの活動ながら校内アンケートでは振り返りに対する意識の向上が見られているので、活動を継続し、来年度の成果を期待したい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	さいたま市学力・学習状況調査「国語」国語で知識・技能に関する課題において4年未満はどの程度でもよいとあるものの平均は低かった。今年度も引き続き、高学年の平均値以上の達成を目指す。	教科書等の教科書から、高学年の教科書から教科書の中から、知識・技能に関する事項の整理の仕方について学習指導を徹底する。また、デジタルコンテンツを活用し、個に応じた知識・技能の定着を図る。
思考・判断・表現	さいたま市学力・学習状況調査「国語」国語で思考・判断・表現においては4年未満では学校単位での平均は低かった。高学年に比べて低学年の学力向上が課題であった。今年度は平均値以上の達成を目指し、低学年の学力向上に注力する。	教科書の活用から考え、積極的に学習意欲の育成を目指すことで、教科書等のICTを活用することで他の教科書から学習の機会を増やし、学びの意欲を高め、学びの楽しさを味わう。また、デジタルコンテンツを活用し、個に応じた知識・技能の定着を図る。
主体的に学習に取り組む態度	学校課題研修の成果もあり、授業改善と授業に合わせた学習意欲が向上している。高学年の児童も積極的に取り組む姿勢が見られる。今年度は引き続き、高学年の児童も積極的に取り組む姿勢を促す。	研究活動「振り返り」を積極的に学習意欲の育成における一つのきっかけとして「振り返り部」を設定し、「自分の考えをもち」「自分の考えを伝える力」の育成に今年度も取り組んでいく。また、デジタルコンテンツを活用し、個に応じた知識・技能の定着を図る。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	知識・技能については、概ね市平均よりも高い結果となったものの、学年や教科で見ると市平均を下回るものもある。また、ICTを活用している高学年の方が知識・技能の定着度が低いことも中間の分析でわかってきたところである。	B
思考・判断・表現	思考・判断・表現については、学年によっては市平均よりも7ポイント高い結果もあるなど、学校課題研修で取り組んでいる「意図的な学び」の効果が発揮されている。同一単元の経年変化でも数値の上昇が見られるので3年間の継続した研修の成果も表れている。	A
主体的に学習に取り組む態度	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を意識し、次の学習につなげることができていますか。」「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の肯定的回答は市平均よりも高く児童主体の学習活動を充実させていく必要がある。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査では、全国平均、市平均と比較しても概ね良好な結果であった。課題として、「知識・技能」において、漢字の送り仮名に関する問題や、敬語の正しい使い方等の基礎的な部分での正答率が全国平均、県平均共に下落している。敬語の使い方に関する問題について解答類型を見てみると、敬語表現を知らない為に正答率が低いという原因もわかった。
思考・判断・表現	知識・技能と同様に、概ね良好な結果であった。しかし、複数の情報を整理したり、比較したり、意図の知識と関連付けたりして考える力に課題が見られた。国語では複数の資料をもとに自分の考えをまとめる問題、算数では具体的な数値が一部示されず、既習事項を用いて解答に迫る問題に課題が見られる。日々の授業を通して、物事を主体的に、深く考えられる児童を育てていく必要がある。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目では肯定的な回答が90%を超え、年度当初に設定した目標値を達成した。日々の授業改善に加え、学校としてICTの活用を積極的に取り組み、児童一人ひとりの主体的な学びを後押しできたことが要因であると考えられる。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	国語・算数共に市平均を2ポイント下回っている。国語科の思考・判断・表現については、市平均と大きな変化はない。しかし、知識・技能においては市平均を3ポイントほど下回っており、日々の学習の充実が定着を図る必要がある。特に算数は、知識・技能よりも思考・判断・表現の方が平均との差が大きく、学習したことを様々な問題でも活用する力に課題が見られた。	小4	国語・算数共に市平均を4ポイント上回っている。学年の実態として、積極的にICTを活用できている。CBT形式に強みが出せたとも考えられる。国語の思考・判断・表現は市平均より7ポイント高く、日々の授業での対話的な学習の成果が出ている。算数においても知識・技能、思考・判断・表現共に市平均を3ポイント以上、上回ることでできているので成果をもとに更なる授業改善に取り組んでいく。
小5	国語・算数・社会については、市平均よりも4ポイント以上高い結果となった。特に国語と算数は同一単元の経年比較で見ても、知識・技能、思考・判断・表現ともに上昇しており、2年間の学習の成果が数値として表れている。理科については市平均より高いものの1ポイント程度にとどまっているので、国語・算数・社会の授業の成果をもとに更なる授業改善に取り組んでいく。	小6	国語・社会では市平均よりも3ポイント高い結果となっている。算数では1ポイント、理科では市平均より2ポイント低い結果となった。理科については、同一単元の経年比較で見ても、0.1ポイントであるが低下している。5年生においても理科には課題がみられているので、理科におけるICTの有効活用の模索など、積極的に授業改善を図っていく必要がある。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果から「言葉の特長や使い方に関する事項」に課題が見られたため、ICTを有効活用して徐々に知識の定着を図る。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 学校課題研修で「振り返り部」を新たに創設し、研究を進めているところであるので、学校全体で振り返りに関する意識を高めていく。

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【原山小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

次年度に向けて

(3月)

年度末評価
(2月)

反映

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> ICTを活用している学年ほど習熟度が高い傾向があり、学年間之差が見られている。 <指導上の課題> ICT機器の操作や活用について教員間での差が大きくなってきている。	教員がICTを活用できるよう、ICT機器の活用研修を授業よりも多く設定する。 利用パターンなどのアプリやソフトに専断に頼るのではなく、習熟の程度に必要に応じてICT活用の授業プランを教員間で検討していく。【4/5の授業は、1人1台端末を使っているような状態を作る。】 伊勢や隣接中学校の場を見かし、エバンジェリストを中心とした授業を研修とする教員のスキルを全体で共有し合えるようにする【学期ごに1回以上実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 複数の情報を整理したり比較したり既習の知識と関連付けたりする力に課題がある。 <指導上の課題> 思考・判断・表現の力は教科横断的に育成していく必要があるが、他教科として教科等に扱えがちな傾向がみられる。	学校課題研修と連携し、学校全体として課題研修を共有し、授業改善に取り組んでいく【R6年度さいたま市学習状況調査「学校の発達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合90%以上達成】

<小6・中3> (4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の感想把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②調査問題の解説 ③振り返りの終了報告
思考・判断・表現	

調査結果分析(7~8月)
 ①結果分析(管理職・学年主任等)
 ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)